

三原市立宮浦中学校第 学年 音楽科学習指導案

単元名：篠笛創作「オリジナルの祭囃子を作ろう」

指導者：三原市立宮浦中学校 宮本 美子

- 1 日 時 : 平成28年7月12日(火) 第5校時
2 場 所 : 第一音楽室
3 学年・学級 : 第2学年2組(39名)
4 単元名 : 篠笛創作「オリジナルの祭囃子を作ろう」

(1) 単元観

本題材は曲種に応じた音色や奏法を自ら選択し、自己のイメージや音楽を形づくっている要素とかかわらせながら創作する能力を育成することをねらいとする。学習指導要領[第2学年及び第3学年]A表現(3)ア「言葉や音階などの特徴を生かし、表現を工夫して旋律をつくること。」イ「表現したいイメージをもち、音素材の特徴を生かし、反復、変化、対照などの構成や全体のまとまりを工夫しながら音楽をつくること。」の内容に位置づけられている。共通事項のうち、音色(楽器の音色・曲種に応じた奏法)、旋律(音階・音のつながり方)、リズム(リズム・パターンとその反復や変化)を扱う。

創作活動をするにあたり、生徒にとって身近な和楽器の一つである篠笛を用いることにした。篠笛は日本の伝統文化で広く用いられている楽器であり、奏法によって多彩な音色を奏でられる楽器である。三原市の伝統芸能「三原やっさ」でも用いられている楽器であり、表現したいイメージを持ちやすく、抵抗感なく創作活動に入ることができると思う。本題材では、「三原やっさ」の特徴をヒントに創作活動を進めていくこととし、創作のテーマを祭囃子とした。この活動を通して、篠笛や郷土の伝統音楽に対する理解、愛着を深めることもできるものとする。

「三原やっさ」とは篠笛、太鼓、鉦、三味線が奏でる祭囃子に合わせて踊り歩くという伝統芸能で、生徒には馴染み深い伝統芸能である。「三原やっさ」の祭囃子の特徴は、和楽器の音色、旋律の繰り返し、五音音階(民謡音階)、弾むリズム、様々な楽器のテクスチャなどがある。民謡音階を用いた旋律からは、祭囃子にふさわしい、明るく陽気な印象をもつことができる。「三原やっさ」における篠笛の役割は、甲音(高い音)や指打ちを多く使用した旋律を受け持ち、祭囃子に華やかさと明るさをもたらしている。

我が国や郷土の伝統音楽など多様な音楽に触れることで、人間の生活と音楽とのかかわりに関心を持ち、生涯にわたり音楽文化に親しむ態度を育てることができる。国際社会に生きる日本人として我が国や郷土の音楽への愛着をもち、尊重する態度を養うことができると思う。

(2) 本単元において育成しようとする資質・能力とのかかわり

本校で育成しようとする資質・能力は以下の5点である。

【知識・スキル】	①課題解決能力	②表現力		
【意欲・態度】	③主体性	④協調性	【価値観・倫理観】	⑤公共心

この中から、本単元において育成しようとする資質・能力とのかかわりについて、次の2点に重点を置くものとする。

【知識・スキル】

②表現力

自己のイメージと音楽を形づくっている要素(祭囃子の特徴)を関連づけた創作をする中で、自分の思いを音で表現する力と、どのような工夫をしたか、工夫点とその理由を言葉で表現する力を身に付ける。

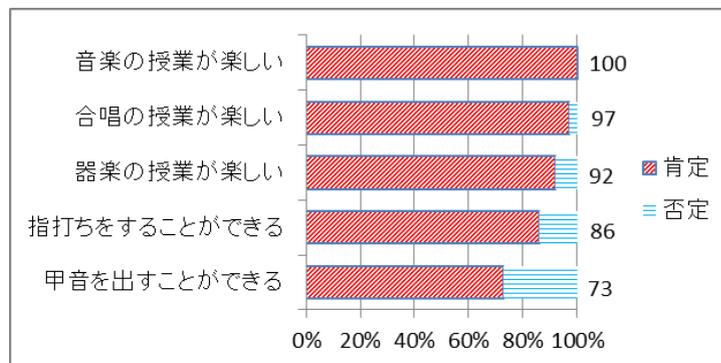
【意欲・態度】

③主体性

生徒にとって身近な題材を扱い、創作方法を導入段階で明確に示すことで、苦手意識を持った生徒も主体的に課題に向き合う力を付ける。また、お互いの作品を聴きあう活動を取り入れることで、ただ音と音を繋ぎ合わせるだけでなく、積極的に創意工夫をする主体性を身に付ける。

(3) 生徒観 (調査結果からみる課題)

本学級の生徒は1学年の1学期後半から器楽の授業で篠笛を扱い、既習曲は「たこたこあがれ」「ほたるこい」「カントリーロード」「ふるさと」などが挙げられる。今年度の器楽の授業では、甲音が多く使用されている「もののけ姫」を教材として扱った。授業の中で、構え方や奏法(指打ちや高音、低音の出し方)、楽譜の読み方について学習している。息を吹き込めば音が出せる楽器ではなく、息のスピードや角度がポイントになる。生徒にとって篠笛は「日本の伝統を感じる」「落ち着く」など、音色の魅力を味わい、身近な楽器として位置付いている反面、「音が出にくい」「高い音(甲音)が出にくい」「指打ちが出来ない」などの課題があり、苦手意識を持っている。しかし難しい分、音が出た時の達成感や多彩な音色を奏でられる楽しさを感じている生徒も少なくない。篠笛はどのような場面で使われている楽器か問うと、圧倒的に日本の伝統芸能、三原やっさという答えが多かった。下記は篠笛についてのアンケート結果である。



篠笛を用いた創作については、1学年の3学期に、日本の「四季」から自分の好きな季節を選び、篠笛の音色で表現することを体験している。篠笛特有の音色や奏法(指打ち)、強弱、間、拍節的でないリズムを生かし、自己のイメージと篠笛の音色の特徴を関連づけた創作ができた。しかし、篠笛の音色や奏法を生かすことはできても、音と音の自然なつながりを持っておらず、効果音のような作品になり、旋律としてのまとまりを意識した作品を創作するには至らなかった。

(4) 指導観 (指導改善のポイント)

指導にあたっては、ただ音と音を繋ぎ合わせる創作に留まらず、自己のイメージと音楽の諸要素を関連づけた旋律を創作させたい。そのため、創作の活動に入る前に様々な祭囃子を鑑賞し、祭囃子そのものの特徴を捉えさせ、創作のイメージを持ちやすくする。また、「三原やっさ」の楽譜を分析することでリズムの反復や変化などの特徴に気付かせ、まとまりのある旋律を創作させる。

主体的な活動を促すために、創作の導入段階で「三原やっさ」を参考にした簡単なリズムパターンに五音音階の音を自由に選び、あてはめて創作をする体験をし、創作活動に対する苦手意識を持たせないよう工夫する。

また、表現力を高めるために、グループ活動を取り入れることで、お互いの作品を参考にして工夫の幅を広げ、篠笛の演奏や創作が苦手な生徒も創作しやすい環境を作る。篠笛の音色や奏法を生かし、音のつながりを工夫して創作させるため、祭囃子における篠笛の役割や特徴を全体で振り返りながら創作させる。

活動の最後には、自分たちが創作した旋律が祭囃子になっているか感じさせるために、「三原やっさ」の鳴り物に合わせて発表させ、篠笛や郷土の伝統芸能への親しみを深めたい。

5 単元の目標と評価規準

単元の目標

○篠笛を用いて、音色、旋律、リズムを工夫して、まとまりのある旋律を創作することができる。

単元の評価規準

関心・意欲・態度	音楽表現の工夫	表現の技能
ア①和楽器の音色、音階の特徴、五音の構成によって生み出される独特な雰囲気、リズムの反復や変化に関心を持っている。	イ①日本の伝統音楽について、音色・旋律・リズムを知覚し、それらが生み出す特徴を感受している。	ウ①五音音階を用いて、リズムに合わせながら音のつながりや奏法を工夫し、表現したい旋律を作っている。
ア②音色、旋律（音のつながり方）、リズムに関心を持ち、即興的に音を出しながら旋律を作る学習に主体的に取り組もうとしている。	イ②知覚・感受しながら、音色・旋律・リズムなどの特徴を感じ取って音楽表現を工夫している。	

6 指導と評価の計画

全時間（本時は2/4）

次	学習内容（時数）	主な学習内容			資質・能力の評価 （評価方法）	
		関	表	技		評価規準
1	<ul style="list-style-type: none"> 日本の様々な伝統芸能の様子を鑑賞し、和楽器の音色や伝統音楽の特徴を捉え、祭囃子のイメージを持つ。祭囃子の中の篠笛の役割、旋律やリズムの特徴を理解する。 <p>課題の設定 情報の収集</p>	○			<ul style="list-style-type: none"> ア①和楽器の音色、音階の特徴、五音の構成によって生み出される独特な雰囲気、リズムの反復や変化に関心を持っている。 イ①日本の伝統音楽について、音色・旋律・リズムを知覚し、それらが生み出す特徴を感受している。 	
2	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項である祭囃子のイメージや篠笛の音色の特徴を確認する。「三原やっさ」の楽譜を分析し、使用されている音やリズムについて整理し、思いや意図を持って祭囃子のフレーズを作る。 <p>整理・分析</p>	○		◎	<ul style="list-style-type: none"> ア②音色、旋律（音のつながり方）、リズムに関心を持ち、即興的に音を出しながら旋律を作る学習に主体的に取り組もうとしている。 イ②知覚・感受しながら、音色・旋律・リズムなどの特徴を感じ取って音楽表現を工夫している。 	③主体性 (行動観察・ワークシート)
3	<ul style="list-style-type: none"> 旋律の続き、創意工夫を加え、締太鼓と合わせて演奏できるように練習する。 <p>まとめ・創造・表現</p>				<ul style="list-style-type: none"> イ②知覚・感受しながら、音色・旋律・リズムなどの特徴を感じ取って音楽表現を工夫している。 	②表現力 (行動観察・ワークシート)

4	<p>・「三原やっさ」の鳴り物と合わせて創作した曲を発表しあう。</p> <p>振り返り</p>			<p>○ウ①五音音階を用いて、リズムに合わせてながら音のつながりを工夫し、表現したい旋律を作っている。</p>	<p>②表現力 (行動観察・ワークシート)</p>
---	--	--	--	---	-------------------------------

7 本時の展開

(1) 本時の目標

祭囃子の特徴を生かして、オリジナルの祭囃子のフレーズを作る。

(2) 観点別評価規準

○音楽への関心・意欲・態度【ア②】

音色、旋律（音のつながり方）、リズムに関心を持ち、即興的に音を出しながら旋律を作る学習に主体的に取り組もうとしている。

◎音楽表現の創意工夫【イ②】

知覚・感受しながら、音色・旋律・リズムなどの特徴を感じ取って音楽表現を工夫している。

評価方法：行動観察、ワークシート

(3) 準備物

・運指表 ・三原やっさ拡大楽譜 ・視覚教材

(4) 学習の展開

	学習活動	指導上の留意事項 (■) (努力を要する生徒への指導の手立て◆)	○育成しようとする 資質・能力 ●教科の評価
導入	<p>○前時の復習をし、祭囃子の特徴（楽器の種類、リズム、旋律）、篠笛の役割を確認する。</p> <p>集団思考 情報の収集</p>	<p>■祭囃子で使用されている楽器を整理し、祭囃子の旋律創作をすることをおさえる。</p>	
	<p>【本時の目標】祭囃子の特徴を生かして、オリジナルの祭囃子のフレーズを作る。</p>		
展開	<p>○「三原やっさ」の楽譜から、祭囃子で使用される音、リズムを分析する。</p> <p>集団思考 整理・分析</p> <p>○リズムパターンと民謡音階を用いて、4拍のフレーズを創作する。</p> <p>個人思考</p>	<p>■視覚教材のリズムパターンと使用されている音の種類、高さに注目させる。</p> <p>■例を示し、どのように創作するとよいか明確にする。実際に音を出しながら創作するよう指示する。</p> <p>◆音が出にくい生徒には、出しやすい音を選択することや、代わりに吹いてみせる。</p>	<p>③主体性（行動観察） 篠笛で即興的に音を出しながら、音色・リズム・音のつながり方を色々試しながら主体的に創作している。</p> <p>●音色、旋律（音のつながり方）、リズムに関心を持ち、即興的に音を出しながら</p>

<p>○自分が表現したい祭囃子のイメージを持ち、創作する。</p> <p>まとめ・創造・表現</p>	<p>■お互いの作品を聴きあい、演奏する場面を設け、同じリズムでも音のつなぎ方次第で雰囲気が変わることに気付かせる。</p> <p>■創意工夫の意図を持って創作するよう指示する。</p> <p>◆過去の生徒作品を披露し、イメージを持たせる。</p>	<p>ら旋律を作る学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>●知覚・感受しながら、音色・旋律・リズムなどの特徴を感じ取って音楽表現を工夫している。</p>
<p>○本時の振り返りをする。</p> <p>まとめ</p>	<p>■祭囃子の特徴をおさえ、現段階の作品にどのように工夫ができているか振り返らせる。他者の作品の良いところについても振り返らせる。</p>	

(5) 板書計画

